



毎年夏になると終戦の年1945年を思い出します。中学3年の時です。この日中学では無く勤労働員先の工場で、天皇の「玉音放送」を聞きました。「敵国は新たに残酷な原子爆弾を使い、むやみに罪のない人々を殺傷し、その悲惨な被害が及ぶ範囲まったく計り知れない。戦争を継続すれば民族の滅亡を招くだけでなく、人類の文明をも破滅させる。国民を守り、これこそが私が日本政府にポツダム共同宣言を受諾させるに至った理由である。」と云う内容です。

戦死者は約230万人、民間人の死者は約80万人と言われていています。前年サイパン島陥落以来アメリカ軍の油脂焼夷弾による無差別爆撃が連日のように行われました。3月10日の東京大空襲、5月29日横浜大空襲は悲惨なものでした。横浜は原爆投下の候補地だったのです。その後5月8日ドイツ降伏、6月23日沖縄戦終結8月6・9日の広島・長崎の原爆投下、8日「日ソ中立条約」を結んでいたソ連がそれを破棄、日本に宣戦布告したのです。

8月15日に戦争が終わって無ければ翌1946年3月湘南海岸に上陸、一気に東京・横浜を占領する作戦がありました。戦争が終わってホッとしたのが実感です。もう逃げなくていいんだと。

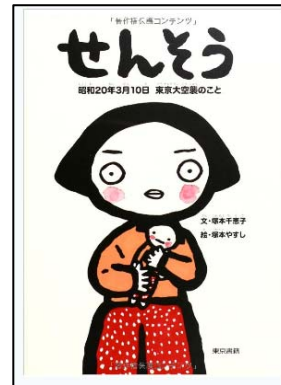
理事長 井崎 和夫

子育て新聞 10月号へ つづく

2度と悲しいことが起こらないように子ども達に伝えていきたい戦争。戦争をテーマに描かれた絵本をご紹介します。今回は塚本やすしさんの3作です。

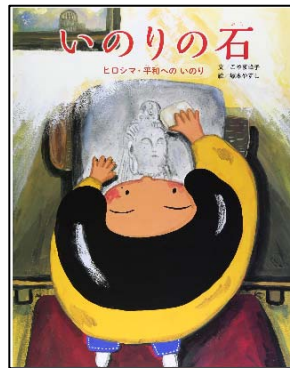
1作目：せんそう

昭和20年3月10日の東京大空襲のことは、作者の母親が子どもの頃に体験した実話をもとに描かれています。



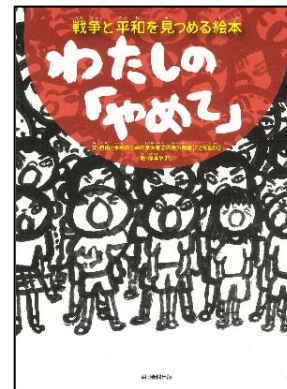
2作目：いのりの石

広島原爆をテーマに、広島電鉄市内電車の線路敷石をモチーフに物語が進みます。



3作目：わたしの「やめて」

子ども達にわかりやすく、戦争反対や戦争って何？ということを知ってもらうための絵本です。今までに新聞や雑誌でたくさん取り上げられた絵本です。



3作の絵本は井崎理事長がおおぞら各園へ寄付して頂いています。保育園へおいでの時に手に取ってみませんか？

9月15日は十五夜です



お月見は旧暦の8月15日に月を鑑賞する行事で、この日の月は「中秋の名月」「十五夜」「芋名月」と呼ばれ、この時期は月が1年のうちで最も明るく澄んで見えます。お月見の日には、お団子やお餅（中国では月餅）、ススキ、サトイモなどをお供えして月を眺めます。

お月見の行事は、もともとサトイモの収穫祭であったという説が有力です。その後日本に伝わったようです。また、日本では旧暦の8月15日だけではなく旧暦の9月13日にも月見をする風習があり、こちらは「十三夜」「後の月」「栗名月」とも呼ばれています。十三夜には、月見団子の他に栗や枝豆をお供えします。

今年の中秋の名月は9月15日、後の月は10月13日です。

作ってみようお月見団子！！

かぼちゃのお月見団子 (親子4人分・約18~21個)

(材料)	かぼちゃ	100g
	白玉粉	100g
	絹ごし豆腐	50g
	ゆであずき缶	適量

(作り方)

- 1 かぼちゃをレンジであたためてマッシュ状にする。
- 2 白玉粉、かぼちゃ、豆腐をボウルに入れ水で調節し耳たぶぐらいの固さにこねる。
- 3 丸めて、お鍋で浮いてくるまでゆでる。
- 4 浮いたら冷水に取り、冷めたら水を切る。あずきとお団子を絡めて出来上がり♪



親子で作ってみてね♪